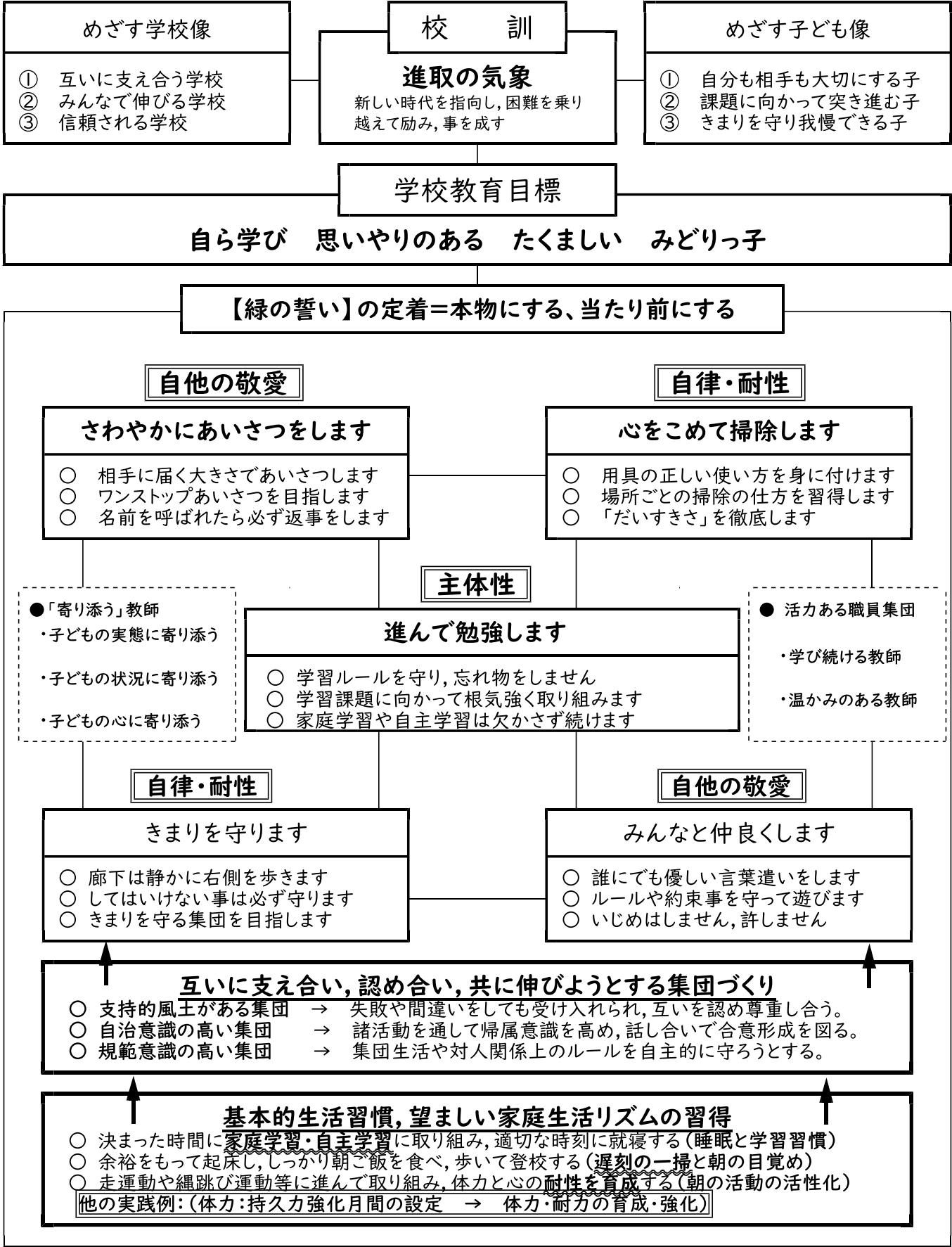


5 令和7年度 学校経営方針



I 具体的な重点内容、共通実践事項

(1) 「緑の誓い」の本物として続くように(いつでも、どこでも、だれもが、ふつうに)

① 昨年度までの学級・学年、委員会活動での取組の継続を!!

② 最重要課題は「進んで勉強します」

- 読解力の育成:国語科を中心とした各教科での実践
 - ・校内研究:国語科を中心に、読解力の向上を図る → 他教科へ波及
 - ・子どもの「学びたい」気持ちをくすぐるめあてを子どもと共に設定、書く活動の設定
- 「スキルタイム」の充実
 - ・家庭学習内容と結んだ実践 例)宿題プリント → 答え合わせ → 学び直し・教え直し
 - ・学習内容と結んだ実践 例)学習内容の発展問題 → 答え合わせ → 学び直し・教え直し
 - ・8:30に1時間目開始徹底 例)国語科プリント→言語領域のプリント(リーディングスキル育成)
- 学習規律の徹底
 - ・忘れものをしない
 - ・しっかり人の話を聞く
 - ・粘り強く取り組む(かんたんにあきらめない、自分の頭で考える)
 - ・前年度までの研究実績及び過去の指定研究(算数科研究)の実績と財産は、引き続き生かしていく。
- 家庭学習(宿題と自学)の定着と充実
 - ・学校での学習以外の学習時間の確保
 - ・学年の発達段階に応じた内容と量
 - ・「自学ノートコンテスト」のような賞賛と励ましの場の設定
 - ・内容によっては、タブレットを活用

(2) 共に育つ、共に育てる実践(教師と子ども・教師と教師)

◎ 「人材育成」は「授業力向上・学級経営の充実」につながり、最終的に子どもの健全な成長につながる。

- ① 教科担任制を志向した実践の継続(高学年専科を活用して)
 - 他学年は、前年度の実績を参考して、可能な範囲で学年内「交換授業」の実施の試みを。
 - ・教師の専門性を生かしたより質の高い授業のため
 - ・同学年の子どもに学年の担任が深く関わることによる児童理解・生徒指導・学年経営の深化
 - 若手教員による先輩教員の授業参観
 - ・「恩送り」の精神で、先輩教員から後輩教員へ教育技術等の伝達を!
(対象:教職経験10年目未満教員)
 - 可能なら、「校内留学制度」も採り入れたい。→ 資質・能力の向上・人材育成
 - ・特に若手教員の育成を図りたい(対象:2年目・3年目教員)

(3) 働きがいのある学校づくりのために

① 働き方改革の推進

- ・定時退庁日の徹底
- ・一人一人の働き方改革(働き方改革は管理職だけがやることではなく、みんなでやること)
- ・成績(通知表)の2学期制、夏季休業期間の短縮とそれによって増えた余剰時数の活用
→振り返りを行い、改善点を洗い出し次年度に生かす。

② お互い様の精神で

- ・助け合い・支え合い
- ・「チームみどり」
※ 職員の入替わりも多かったので、お互いに声をかけ合い、「助け合い・支え合い」ながら教育活動に取り組んでいきたい。

(4) 信頼される学校づくりのために

① 「誠意」ある指導・支援を

- ・誠意とはスピード感と丁寧さ
- ・子どもは笑顔で帰す。
(子どもの思いをいったん受け止めた上での指導・支援を)

「至誠にして動かざるものは、未だ之あらずる也」(孟子)
誠意を尽くして人と接したり仕事に取り組んだりすれば、周囲の協力を得てどんな難局であろうと乗り越えることができるという意味。心に留めておいていただきたい。

② 矜持をもち即対応

- 怠慢(忘れていた)、緩慢(後でやろう、後でいいだろう)、傲慢(まあ、これくらいいいさ)の排除
※ 保護者や地域住民が学校に向ける目は年々厳しくなっている。(社会的な傾向)